

和歌山大学教育学部の情報処理教育に 関するアンケート調査

A Questionnaire Research on Information Education in the faculty of
Education in Wakayama Univ.

山口 晴 久 (情報処理教育懇談会世話人)

Haruhisa Yamaguchi

1. はじめに

文部省学習指導要領の改訂により、学校教育全般に情報処理教育が導入されつつある。それに伴い情報処理教育に習熟した教員の養成が急務となっている。このため教員免許法が改訂され、教員養成大学のカリキュラムにおいても、教員免許取得のための必修科目や選択単位に情報処理関連の科目が増加しつつある。また、和歌山大学教育学部には1989年度より新課程が設置されたが、新課程には、情報科学コースが設置され、情報処理教育を主要な柱とした教育が行われている。

しかるに、和歌山大学教育学部の情報処理教育の現状としては各教室毎あるいは各教官毎に個々に情報処理教育を実施している状況にあり、教育学部全体のコンセンサスを得ながら、全学部的な効率的な情報処理教育システムを作ることは全学部的な教育上の課題となっている。このような状況から、和歌山大学教育学部の全学部の情報処理教育の諸問題を検討するため、1990年度より情報処理教育に関心をもつ多数の教官により「情報処理教育懇談会」をもち、多くの教室からの参加者を得て、和歌山大学教育学部の情報処理教育の現状、及び将来について活発な討論を行ってきた。その討論の過程で、現在の和歌山大学教育学部の情報処理教育の実状を知り、教育学部教官の情報処理教育に対する意識を把握するため、アンケート調査を実施することが提起された。本報は、情報処理教育懇談会により1991年4月に実施された情報処理教育アンケート調査の集計結果の報告である。このアンケート調査結果を記録に残し、この集計結果が今後の教育学部の情報処理教育を全学部的に考えていくことに資することを考慮し、教育実践研究指導センター紀要に掲載するものである。

2. アンケート調査の概要

2. 1 実施期間 1991年4月

2. 2 実施方法 調査表配布返却方式

各教官 box にアンケート調査の主旨説明書と調査表（次章に結果とともに示す）を配布の後、任意返却方式で回収する。

2. 3 調査内容 次章に結果と併に示す。

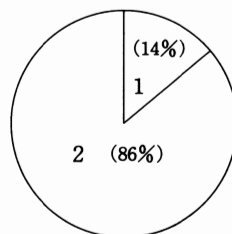
3. アンケート調査内容, 調査結果

(情報処理教育アンケート調査集計結果) No. 1 情報処理教育懇談会 1991. 4
 アンケート回収票数 29

(アンケートの解答には一部に未解答の事項や重複した解答があったことを付記する)

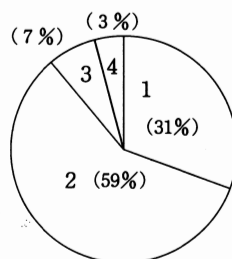
A. あなたの関連する分野で学生指導において, 情報処理教育が必要ですか

- 1. 必要ない (4)
- 2. 必要である (25)



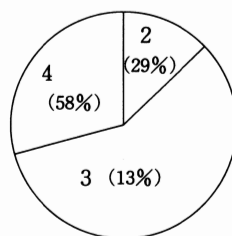
B. 現在, あなた自身は学生指導において情報処理教育をどれくらい行っていますか

- 1. 行っていない (9)
- 2. 少し行っている (17)
- 3. かなり行っている (2)
- 4. その他 (1)



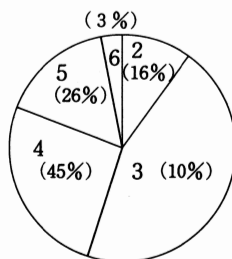
C. 現在, あなたが所属する教室では, 情報処理教育をどれくらい行っていますか

- 1. まったく必要性が無い (0)
- 2. 必要性はあるが行っていない (4)
- 3. 各教官が必要に応じて対処している (18)
- 4. 教室として授業科目に情報処理教育を入れている (9)
- 5. その他 (0)



D. 将来, あなたが所属する教室で, 情報処理教育がどれくらい必要だと思いますか

- 1. 必要ない (0)
- 2. 入門程度 (3)
- 3. アプリケーションソフトウェアがかなり使える程度 (14)
- 4. 言語によるプログラミングができる程度 (8)
- 5. アプリケーションソフト, 言語によるプログラミングなど情報処理に関する多方面の専門知識・活用能力がある程度 (5)



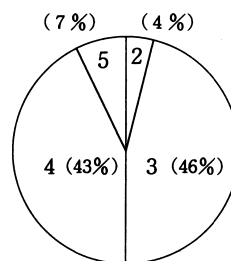
6. その他 (1)

○5にしたがいがい、教官の能力が無い。

私の分野では動作分析、画像処理等をよく使うので、プログラミングをできることが望ましいと思う。

E. 教育学部の教育において情報処理教育をどのように位置づけられ
ばよいと思いますか

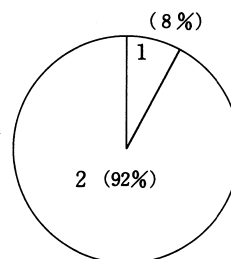
- 1. 必要ない (0)
- 2. 必要な教室が専門教育科目を開設すればよい (1)
- 3. 教室を越え、全体として専門教育科目を開設し必要な教室がそれを履修させる (13)
- 4. 教育学部の一般教育科目・専門教育科目を通じて必要な授業を開設し、各教室が履修させる (12)
- 5. その他 (2)



- 私の教室ではワープロ、データベース、表計算といったソフトが利用されるが、具体的な使用のレベルとなると一般的な入門教育(ソフトの)では不満足で、研究テーマに沿った教育が必要になると思う。(2つの解答に近くなるかも)
- 教室を越えた一般教育科目としての情報処理教育と、各専門分野における情報科学に関連した授業科目があるのが理想的と思う。
- 4. に踏みこむことが望ましいと思うが、現段階では2. よりも3. として手がけていく必要があると思う。
- 3. または4. が望ましいと考えるが、人数とスタッフの規模の関係で疑問がある。当面は2. で行き3. または4. の可能性を探ることが現実的だと思う。
- 一般教育で行うとすればそれは観点が異なり、基礎教育的なものを求めることはスジ違いと思うので、4. は不適と考える。

F. 情報処理教育について、情報処理センターの寄与はどうかあるべきでしょうか

- 1. 寄与する必要はない (2)
- 2. 寄与する必要がある (23)
→あると答えた方はどのような点か具体的にお書きください



○「寄与する必要がある」場合の具体事項の意見

「寄与する必要がある」場合の具体事項を意見の多い順に述べる。

1. 授業用ソフトウェア・機器の充実 (6人)

授業で必要とするソフトウェアを購入・充実させてほしいという意見が多い。

なかには、「情報処理センターの目的と合致するもの」「いくつかの分野で共通に扱う題材に必要なソフト」という条件付きの意見もあった。

2. 講習会・利用相談の実施などセンター利用情報(ノウハウ)の提供 (6人)
(具体的な意見)

- ・コンピュータ入門者用講習会

- ・教官に対し、情報処理教育の実践例などの情報提供
- ・学生に対し、端末機やソフトの役に立つ利用法などの情報提供、相談業務
- ・センターのシステム、ユーティリティーの基本的な使い方に対するガイダンス
- ・タイピングレッスンなどの共通で使用するチュータシステムの提供
- ・ネットワークに接続した総合的サービス
- ・他センターと同様人の不足と主旨からずれる事が行いがたい事を考慮しても聞き手が必要とする情報を入手しやすくしてほしい。

3. その他の意見

- ・例えば教育学部生の体力データ等を採取しているが、その処理はセンターのコンピュータに委ねざるを得ず、アプリケーションとセンターとの連携が自ずと必要になる。その使用メリット等、多面的にセンターの指導を必要とする。
- ・教室によって情報処理教育の能力に開きがあると思うので（むしろ不十分な所が大半と思うので）センターの寄与に多に期待する。
- ・将来的には一般教育的な面からのサポートないし、その規格についての支援が可能ではないか
- ・必要に応じて使える場所の設置
- ・授業を持つ場所の提供
- ・専門家を出すほどの教育を
- ・入門程度の教育を
- ・課金制度の整備
- ・タスクレベルの分離

○情報処理教育についての意見

- ・情報処理教育はAB両課程を問わず必要なものと考えられる。平成2年度の教官研究集会でもこの問題が取り上げられており、その重要性が強調された。現状では新課程の情報関連分野の方が教員養成課程の手助けをする必要を感じる。実際、上記の教官研究集会でもこの様な例は報告されていた。本学部でもその問題に関してAB両課程のセクト意識があるとすれば、学部全体の発展にはつながらないのではないかと思う。もちろん、新課程の情報関連分野の整備が完成されているわけではないことは承知しているが、両課程が共に充実することが学部の発展に不可欠であるという観点で読んで頂けたらとてもうれしい事だと思う。
- ・専攻生の研究室（溜り場）にセンター接続のパソコンをおいておけば日常的に啓発しあいながら力量を増大させていく。
- ・本、冊子で見られる情報処理教育の解説でなく企業・政府の情報処理教育に関する情報が知りたい。
- ・できれば教育学部にはTRONがほしい。とはいってもそのコンピュータのソフト・ハードは固定して考えない方が学生のためだと思う。コンピュータリテラシーが特定企業のセルスマンワークになるのは考えものだ。大学が専修学校になる必要はまだないと思う。県、中学にも特定機種がはいっているわけではない。
- ・通信・ネットワークに関する教育は必要だと思う。少なくともmailとnewsは知らせておきたい。

- ・学生がやりたい事をコンピュータでどう実現させるかという教えがあってもよいのではないか。
- ・小中高での情報処理教育も並行して考えること
- ・大学での情報処理教育を考えること
- ・教室という枠をこえて教育を考えること
- ・既成の概念にとらわれず、新しい発想で教育内容を考えること（コンピュータを用いた創造性の育成）
- ・Conceptの統一もしくは分化の必要性があると考えます。
- ・社会的要請と研究動向などから今後情報処理教育はいやでも広い分野で必要になると思う。それに対してそれを指導し有効利用するためのスタッフが必要になる。その場合、どうしても初心者の多くがその少数の指導者に頼ることが考えられ、荷重負担が予想される。教官の中で、必要な者や興味を持つ者を集めて、教育の場をできるだけ作って、その役割が分担できる様にしていく必要もあると思う。

○現在実施されている情報処理に関連する授業例（概要のみ紹介）

授業科目名	受講者の概数	情報処理形態	指導環境等
音声言語文章表現	20	アプリケーション使用	PC98
地学計算法	10	FORTRAN77言語	MV40000
教育工学特講	20	ワープロソフト, BASIC	PC98 10台位
情報工学、同実習	15	C,BASIC,アプリケーション	PC98 15台位
物理学実験1B	40	BASIC,ワープロソフト	PC98 50台位
プログラミング言語	40	PASCAL,FORTRAN	パソコン,ワークステーション
情報科学概論	110	DTPソフト等	パソコン,メインフレーム等

4. おわりに

本アンケート調査に対する個人的論評、考察はさし控えたい。これらの結果に対しては本学部教員各位がそれぞれ意見を出されることを希望する。

本アンケート調査に御協力いただいた各教官に感謝するとともに、今後の本学部の情報処理教育について、いっそう充実をはかるべく議論がなされることを希望する。